

## 天声人語

近年、英語圏でファビングという新語が広まり、辞書にも収載された。フォン（電話）とスナビング（無視）を合成した言葉だ。スマホやタブレットを見たり返信を打ったりして目の前の人を無視する行為を指す▼横綱日馬富士による傷害事件は、後輩力士のファビングが引き金だったようだ。モンゴル勢の懇親の席で説教を始めたところ、後輩が鳴ったスマホを触り出したという▼許されざる暴力事件である。角界の範たる横綱なら怒りは自制せねばなるまい。だがその半面、スマホに話を遮られてムツとする感覚はわからなくもない▼筆者が米国に駐在した数年前、職場の会議中ずっと情報端末に触れている同僚が何人かいた。「疑問点をすぐ調べられる」「急ぎの返信に欠かせない」。言われて納得はしたが、それでも重要な議題が軽んじられたような気がしたものだ▼「夕食時は彼の家族の誰もコンピューターに触れなかった。食卓を囲んで本や歴史について話すことが大事だと考えた」。アップル創業者の故スティーブ・ジョブズ氏の伝記作家がそう語っている。家で子どもたちが機器に触れる時間を制限していたとも聞く。数々の夢ある機器を世に送り出した当人には、その副作用も見えていたのだろう▼目の前の誰かよりスマホを重んじるファビング。筆者の目には非礼と映るが、将来は広く社会に容認されるのだろうか。相撲史にまちがいはなく残る今回の不祥事はさて、日本のIT史やマナー史にどう刻まれるのだろうか。

2017・11・17